

令和6年度（2024年度） 伊丹市立総合教育センター 夏季教職員研修等における

3つのアップデート完了！



その1 先生がアップデート

7/22(月)～8/9(金) 対面研修 24講座 オンライン研修2講座

7/22(月)～8/30(金) オンデマンド2講座



伊丹マイスター(先生)が講師やアドバイザーとして参加いただいたも研修も！



総合教育センター主催の研修会で先生方とつながって学んでいます。

理論

教職員の学びの姿

その2 研修のアップデート

オンデマンド研修導入

アンケートWeb化しデータ活用・タブレット端末を活用
カリキュラムセンター出張ブースを設置



コンサルタントが選書した書籍を見られるブース



教職員の学びと

教室の子どもたちの学び

はつながっています

子どもの学びの姿

協働的な学び

個別最適な学び

実践

主体的・対話的で深い学び

その3 指導主事もアップデート

市のICTの実践報告

教育動向を把握するための研修会等に参加



先生の学び（研修）のリフレクションから

子どもの目線に立って考えることが大切だと思いました。「なぜできないのか」を子どもの特性のせいにするのではなく、その特性や背景を生かした支援をしていくことが大切だと思いました。

学級経営を意識してやってきたつもりだが、指名順や、いいり、いいられ関係など、教員の一言が助長させるかもしれない、という意識、言葉選びの意識をもう一度強く持たなくてはならないと感じました。

生徒から相談事をされた際に親身になって話を聞いていたが、「よく言ってくれたね。ありがとう」と「今まで一人でしんどかったね」、「今まで気づいてあげられなくてごめんね」などの言葉がけで生徒の心がどれだけ安心するのか、救われるのか分かった。今後は生徒一人ひとりと向き合いながら双方向のコミュニケーションを意識して取り組んでいきたい。

この研修でさまざまな先生や指導主事と話をすることで気づくことや、学びになることが多くあった。自分も同じ悩みを抱えていたり、解決方法を見つけてくれたり、いろいろなヒントが隠されていてとても良い時間であった。



普段の授業から工夫をすることができていないと思った。訪問指導や初任者指導の先生に見ていただく時は教材や授業の流れに工夫をするよう意識しているが、普段の授業だと工夫が足りていないということにグループでの話し合いの中で気付いた。

学びを委ねるということと放任することの違いを強く意識しました。また、これからの教師の役割も考えさせられました。一斉授業のティーチャーとしての役割だけでなく、子ども同士を繋ぐファシリテーターや、子どもと伴走するコーチなど、様々な役割を使い分けることが必要だと思いました。

子どもを真ん中において、子どもがやりたくなる、考えたくなるように授業をデザインできるようにしていきたい。

クラスのすべての子どもたちを、自分は目を向けることができていると勘違いしないようにアンテナを高くしていけないといけなさと再認識した。そのためには、自分ができている働きかけは続けていき、本研修で感じた、意図が伝わらない指導をしている場面は、しっかりと改め、子どもたちの成長を支援していきたい。

今日の学びを 明日の教室へ 先生たちのアップデートを支援していきます

伊丹市立総合教育センター

〒664-0898

兵庫県伊丹市千僧1-1

072-780-2480（代表）

研修関係の情報は
こちらにも公開しています

